

耐震管の布設により、断水を回避する

【対策】70-2 上水道管路の耐震化対策

対策概要：地震災害等で破損した場合に断水影響が大きい上水道の基幹管路（導水管・送水管・配水本管）について、耐震化等の対策を強力に推進することにより、国民生活や産業活動に欠かせないライフラインである水道の耐災害性を強化し、災害等による大規模かつ長期的な断水のリスクを軽減する。

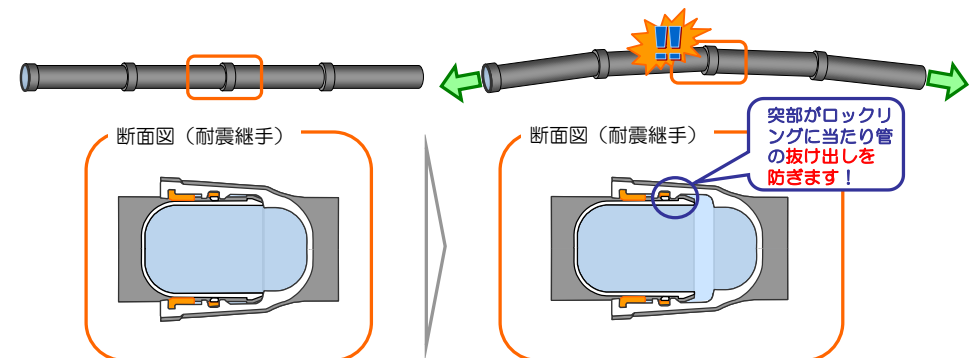
府省庁名：厚生労働省

【事例】水道施設更新事業

- 実施主体：神栖市水道課
- 実施場所：茨城県神栖市
- 事業概要：配水場から水を届ける基幹管路の継手は耐震性が低く、地震等により離脱することで漏水事故が発生し、断水につながる恐れがあった。このため、継手に伸縮性があり、地震等による地盤の変位が発生しても、離脱や破損しない構造を持つ、耐震性を有する管路への更新を進めている。
延長：約1,900m 口径：φ200mm～φ400mm
管種：GX形ダクトイル鋳鉄管及び水道配水用ポリエチレン管
- 事業費：約5.3億円
（うち5か年加速化対策（加速化・深化分）約3.7億円）
- 効果：令和5年5月に発生した千葉県東方沖を震源とする地震では、震度5弱を観測したが、事業を実施した地域では、耐震化を図った基幹管路の漏水事故は発生せず、断水も生じなかった。



耐震管の布設工事状況



耐震性の高い管路を採用